

村上聡子先生 : N Engl J Med (2010)362: 101-109

**“米兵の妻は、病んでいる！。。らしい。”**

**Deployment and Use of Mental Health Services among U.S Army Wives**

【背景】イラク、アフガンへの米兵派遣は、兵士自身だけでなくその妻にも、心の病をもたらすのではないか？という素朴かつ重大な疑問に答えた衝撃のレポート！、いや研究。。

【方法】2003年から2006年までに、メンタルヘルスの医療機関を受診した米兵の妻 n=250,626 のカルテ記録をもとに、派兵の有無や期間別に、精神疾患の診断について検討がなされました。

【結果】イラク・アフガン派遣兵の妻 n=172,568 の中で、何らかの精神疾患の診断を受けた妻は36.6%であり、非派遣兵妻 30.5%に比し高い傾向を示しました。内訳は、アルコール依存(1.1 vs 0.8)、不安神経症(13.6 vs 10.8)、うつ(23.7 vs 19.1)、不眠(8.5 vs 6.6)などでした。派兵された兵士妻の中で、派兵期間が11ヶ月以下と11ヶ月以上を比較すると、何らかの精神疾患の診断を受けた率は11ヶ月以下で41.3% vs 以上で60.7%と長期の兵士妻の方が高い傾向を示し、ほとんどすべての疾患で長期化により診断率は上昇していました。

【結論】このように、アメリカでは、このイラク、アフガン問題は、妻の心にも影響を及ぼして、その疾患予防策についての議論がなされようとしています。“亭主元気で留守がよい”とテレビで謳う、どこか国の奥様方に聞かせてあげたいレポート、いや研究でした。。(文責 阿比留)